

兵庫県こころのケアセンター 平成29年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

- 1 全国初の「こころのケア」の拠点施設として平成16年に開設されて以来、トラウマやPTSDの専門研究・支援機関として、また相談・診療機関として多岐にわたる取り組みを進めて14年目となる。その実践の中で蓄積された経験と知見が、東日本大震災や熊本地震等被災地の支援にも役立てられ、全国的にその活動が高く評価されている。
- 2 研修事業については、ニーズに対応した工夫を重ね、毎回安定した多数の受講実績を上げ、かつ満足度も高いこと、また県外からの受講者も5割となり全国的な広がりを見せていることは大いに評価できる。
ヒューマンケアカレッジ事業では、いのちの尊厳と生きる喜びを高めるためのアプローチ「ヒューマンケア」の理念を広く浸透させ、実践に繋げている。音楽療法士養成講座にあっては、修了者目標数が減少傾向にあるため、現状を分析し、音楽療法の有益性の認知度を如何に向上させていくべきか、また講座運営にかかる今後の方針について検討していくことを期待する。
- 3 当センターの重要な情報発信源であるホームページについて、平成29年度は心理教育に役立つ絵本の紹介等、子どものこころのケアにかかる内容の充実を図ったこと、また子どものこころのケアや熊本地震後のこころのケアにかかる関心の高まりを受け、想定を大幅に上回るアクセス数があった。今後も、アクセシビリティの向上を期待する。
- 4 連携・交流事業では、東日本大震災や熊本地震の被災地へ当センター職員が継続して赴き、精神医療関係者等へのコンサルテーションを行う等、ニーズに応じた被災地の方々に寄り添う支援を継続していることが評価できる。また、29年度は特に、ひょうごDPAT体制の整備として、熊本地震で行った活動経験を基に内閣府の大規模地震時医療活動訓練をより実践的、効果的な形で実施したことを評価する。
- 5 相談・診療事業については、複雑で困難なトラウマやPTSDの専門機関であることが広く認知され、その相談・診療件数も増加傾向にあり、他に専門治療のできる施設が少ない中で、その役割が一層重要視されている。
- 6 研究機能では、年度完結の短期研究、3年間の長期研究ともに、こころのケアに係る実践活動に寄与する研究を進め、着実に進展している。加えて競争的資金による研究では、多数の外部資金を獲得し、当センターの研究者と研究テーマが高く評価されていることが表れている。
- 7 今後も当センターの有する重要なミッションに鑑み、引き続き先駆的・指導的役割を果たされることが期待される。そのためにも、実施成果の反省点を踏まえ、次年度の取り組み方針策定と実施を行うなど、PDCAサイクル手法に基づく事業計画を実施すること、またアウトプットのみならず、当センターの役割に鑑みた成果を表現するアウトカムやインパクトを十分に意識した取り組みを進めることで、さらなる飛躍を望みたい。
- 8 災害以外にも事故、犯罪、人間関係等様々な社会現象の中で、こころのケアの重要性が理解されるようになってきており、当センターが設立以来、着実に事業活動を展開し、社会に貢献してきたことは大いに評価できる。今後ますます複雑化していく社会のニーズに応じていくにあたり、当センターの担う役割の重要性に鑑みれば、設置者である兵庫県には一層の財政的支援、人的支援等の配慮を望むところである。